

# 学生寮運営に関する一考察

## — 寮キャリア教育とその周辺 —

五十川 読\* 遠山 隆淑\* 井山 裕文\*\* 磯田 節子\*\*\*  
 中 島 晃\*\*\*\* 小林 幸人\* 上久保 祐志\*\*\* 鎌 勇己\*\*\*\*\*

### On the management of school dormitory - with a view toward career education -

Satoru Isogawa\*, Takayoshi Tohyama\*\*, Hirofumi Iyama\*, Setsuko Isoda\*\*  
 Akira Nakashima\*, Yukito Kobayashi\*\*, Yuji Kamikubo\*, Kuwa Yuki\*\*

Abstract In this paper, we discuss the management of school dormitory. Our main conclusion is that it is an effective way, for every person who is managing a school dormitory, to have the viewpoints of career education, and we give some proposals as experimental trials, for seeking the best or better way of managing a school dormitory.

キーワード：寮運営，キャリア教育

Keywords : the management of school dormitory, career education

## 1. 序

本稿では、平成 22 年から 25 年のある一定期間において委員・寮長あるいはアドバイザーとして寮運営に係わった著者たちの経験に基づき、キャリア教育の観点を備えた寮運営方針が、寮の円滑な運営にとってきわめて有効であることを明らかにした上で、そうした方針が有するさらなる可能性について考察する。

第 2 章では、寮運営について概観する。特にここでは、本校における寮の位置づけ上不可欠となる寮運営の「留意すべき要素」別言すれば、寮運営構成要素を列挙する。これらの要素は当然、有機的・構造的に互いに関連しているが、本稿ではその関連性や構造を明らかにすることが目的ではない。それゆえ、そうした点については別稿にゆずり、主なものを単に列挙するに留める。

第 3 章では、「寮キャリア教育」の実践につて述べる。特に、平成 23 年から 24 年までの 2 年間、著者たちのうちの小林と上久保を中心に校長裁量経費の支援を受けて実施したプロジェクト「寮を利用したキャリア教育のモデル構築」

を紹介する。

第 4 章は、著者の一人で、寮長を務めた鎌が中心となって、平成 25 年に実施した寮生会役員組織の統合・再編について述べる。この再編は、寮におけるキャリア教育実践の一つとして試みられた寮生会育成の様々なサポートの成果の一つである。

最後に、第 5 章において「キャリア教育」の視点が寮運営にどのように反映されたかを検討し、その重要性と可能性について論ずる。

管理業務を円滑に進める手法の一つとしての P（計画）、D（実行）、C（評価）、A（改善）サイクルから見れば、3 章と 4 章は P と D に、そして 5 章は C と A に該当する。

## 2. 寮運営概観

### 2.1 本校における寮の位置づけ

本校の学寮は、「勉強するための生活の場」と「共同生活を通じて人間形成する場」を提供し、高専教育の目標の達成を目的として設置されている「教育寮」として位置づけられている<sup>(1)</sup>。

### 2.2 寮運営の組織

学務課寮生活支援係（係長 1 名、非常勤務職員 1 名）、寮務委員（主事 1 名、各科より委員または主事補 1 名）、寮生会役員（男女寮長他 20 名程度）、女子寮寮母（非常勤務職員 2 名で曜日毎に分担（主として）17:00～21:30 勤務）、保健師（非常勤務職員 1 名週 3 回、16:00～19:00 勤務）が中心となり、担任、保健室、施設係と連携し運営している。

\* 共通教育科（八代キャンパス）  
 \*\* 機械知能システム工学科  
 \*\*\* 環境社会デザイン工学科  
 \*\*\*\* 生物化学システム工学科  
 \*\*\*\*\* 機械知能システム工学科（平成 25 年度八龍寮 寮長  
 現 株式会社フランチア勤務）  
 〒866-8501 熊本県八代市平山新町 2627  
 Dept. of Mechanical and Intelligent Systems Engineering,  
 2627 Hirayama, Yatsushiro-shi, Kumamoto, Japan 866-8501

夜間の当直業務（17：00～8：30）は、教員と（一部）警備員が、また休日の日直業務（8：30～17：00）は警備員が担当している。

### 2.3 安全・健康管理

「火災・地震・台風等の自然災害・不審者侵入の対応等」に関する「安全管理マニュアル」があり、年2回寮の避難訓練を実施している。また、女子寮には、監視カメラ等の警備システムが導入されている。

寮居室のカギは、寮生一人一人に貸与し、個人管理としているが、紛失等や破損に関しては、寮務支援係が対応している。また、閉寮時や長期帰省の際は、一時返却を義務づけている。居室にはダイヤル施錠式のロッカーがあり、机には各自が準備した南京錠で施錠できるようフックが設置されている。男女それぞれの棟に、貴重品管理のための貴重品ボックスを設置している。

点呼については、寮役員が担当し、宿直担当者（教員または警備員）が報告を受け管理している。

夜間の急病人やけが人の対応は、保護者に連絡すると共に、当直者がタクシーチケットを利用して救急病院等へ搬送している。

寮の食事は、寮食堂運営業者が全寮生に提供しており、アレルギー調査やその対応、台風等の自然災害に備えた非常食や水の備蓄については、寮食堂運営業者選定の際の仕様書に盛り込まれているが、計画停電への対応等、その都度、連携して対応すべき事案もある。

当直者が翌日の「朝巡回」を担当し、各居室を巡回して指導すると共に、寮生や寮施設の安全確認に努めている。生活が不規則であったり、寮の食事を摂らない寮生については寮務委員が指導している。

寮は多くの学生が共同生活を送っているため、人間関係の悩み等、寮生一人一人のメンタルヘルスには十分注意を払う必要がある。本校の寮には、寮健康センターがあり、週3回保健師が寮に常駐して対応しており、特に新入生に対しては、環境の変化に対応できるまで、保護者・担任・保健室と連携し十分な注意を払うよう努めている。また、新入生については、アンケート調査や聞き取り調査を実施している。

以上に加えて、寮においては、安全・健康管理意識の向上を促すための啓発活動の促進ならびに、安全管理体制のチェック・整備も不可欠の取り組みである。

### 2.4 寮施設管理

寮施設の経年劣化に対応し、計画的な施設・設備の整備を継続して実施してゆくことが必要である。特に本校では、女子寮の居室が不足しているため、改修等により対応する必要が生じている<sup>(2)</sup>。これらについては、予算要求を含め、施設係や管理課と協力して進めている。また、本校には各居室にクーラーが設置されているが、リースであるため一定の期限ごとに更新しなければならない。

また清掃・節電・器物破損については寮生会との協力の下対応している。

### 2.5 寮の秩序維持と支援（生活・学習指導）

寮の秩序維持や安全確保を目的として寮則が定められ、学習寮として自習時間や食事、入浴、点呼、消灯、門限等が寮の日課として定められている。

寮則の違反については、加点方式を採用し、違反行為に応じて罰則を課している。特に寮内での飲酒や喫煙、点呼後の無断外出等は寮生の安全に係わる事項であるため、退寮勧告を含む厳しい規則となっている。残念ながら、盗難や器物破損等の事案も発生しており、その都度、注意喚起をしている。平成25年までの5年間の寮則違反や盗難件数の推移に目を向ければ、下の表1が示しているように、若干、改善傾向にある。特に、喫煙による指導件数は大幅に減っている。

表1 寮内謹慎者数など

	H25	H24	H23	H22	H21
寮外待機者数	11	15	27	29	46
退寮勧告者数	3	11	11	18	4
盗難件数	2	12	9	10	15

学習指導面では、宿直教員が科目に関する質問を受け付ける他、他高専の取組を参考に、上級生による下級生の学習指導の時間を定め、寮役員（上級生）が対応している。また、英語教育の一助として、地元のALTの協力を得て寮内で英会話によるALTとの交流会（希望者対象）を実施している。下の表2は、寮生と寮外生の成績比較である。欠課は寮生の方が少ない。成績については、全体として、有意差はみられないが、学年毎の集計では、学年が進むにしたがって、寮外生より寮生の成績の方が上回る傾向がみられる。

表2 成績比較

	平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	成績	欠課	成績	欠課	成績	欠課
A 寮生	80.0	18.7	80.7	13.2	80.0	16.1
B 寮外生	79.8	25.9	79.0	27.5	78.1	25.5
A-B	+0.2	-7.2	+1.7	-14.3	+1.9	-9.4

### 2.6 寮生会・寮行事・寮生保護者会

第4章で具体的に述べるように、寮運営では寮生会や上級生を中心とする寮役員の貢献が必要不可欠である。下級生に対する寮規則の遵守を中心とした指導については、寮生会の上級生が行っているが、寮務委員会が作成した「寮内における指導の留意点について」に沿って、指導の目的、指導計画や実施予定時間を明記した指導願（計画書）を提出している。実施に際しては必ず寮務委員が立ち会い、実施後は毎回指導報告完了書を提出している。

寮運営においては、寮生会や寮役員と密に連携することが重要であるが、本校では、男子寮および女子寮の寮長や副寮長が、毎日、昼休みに寮務支援係を訪ね、寮務主事や寮務委員と連絡を取り合っている。

寮生保護者会は、春と秋の年2回開催しているが、遠方出身の学生が多く、保護者会の会長・副会長をはじめ理事の確保は容易ではない。寮のクーラーは、リース契約であるため、寮生保護者会との契約となっている。

## 2.7 留学生・専攻科生

本校では、平成21年に学寮における留学生フロアーと専攻科生フロアーが整備され、留学生フロアーは国際交流委員会が、また、専攻科フロアーは専攻科委員会が主体的となって管理している。

専攻科フロアーは、本科生とは別の寮則が定められ、遅くまで研究する学生に配慮して、門限を11時としている。夜の点呼は、点呼責任者が専攻科フロアーから当直者へ電話で報告していたが、現在は、著者の一人である中島が平成25年度に試行的に作成したタブレット端末を利用した点呼システムを利用している。

## 2.8 閉寮期間中の寮利用

本校では、平成22年度の厚生補導研究会での議論を踏まえて、23年度より各クラブ顧問、担当教員、教務委員会、学生委員会の協力の下、夏休みと春休みの一定期間について、クラブ合宿や研究・就活準等の目的で寮を利用することを許可する制度をスタートし、一定の成果をあげている。閉寮期間中であるため、この制度を利用する寮生からは、光熱費として1泊あたり300円を徴収している。

## 2.9 その他

宿直業務に関しては、教員の負担軽減や、管理当直業務と教育指導の分業による効率化を目指して、男子寮の当直者2名の内、1名が担当していた一部を外部委託している。当初は、非常勤職員の採用を模索していたが、時間帯の制約や適切な人材の確保といった観点から、警備会社と契約している。

また、会議の効率化やペーパーレスを実施するために、大型の電子ディスプレイを導入し、会議の際にはこれを利用している。

## 3. 寮運営とキャリア教育

### 3.1 プロジェクトの立ち上げ

本校で実施されたキャリア教育のFD研修会では、キャリア教育においては、特別な教育内容に新たに着手する必要はなく、「すでに実施している教育活動の中身を検証し、『そのどの部分がどのようなキャリア形成につながるのか』を明示し、学生のひとりひとりがその意識をもって学習に取り組むように仕向けること」が肝要であることが示された。

その点で、寮生活はキャリア教育の宝庫である。なぜなら、学生ひとりひとりが「寮生活のどの部分がどのようなキャリア形成につながるのか」を意識し寮生活を送ることそのものがキャリア教育推進につながると考えられるからである。このような観点到立ち、このプロジェクトを立ち上げた。

当初は、寮長をはじめとする役員会に働きかけ、寮生自身による「寮生活におけるキャリア教育形成プログラム」作成を予定した。しかし、寮生会役員が主体的にプロジェクトに取り組むことを通じて、寮の自主的な運営意識を高めることにより、かれらがオピニオンリーダーとなること、

さらにそうした意識そのものが全寮生に波及し寮生全員が寮運営に意識的に関わるようになる効果を期待して、寮生会の支援・育成へと方針を変更した。具体的には、以下で述べる方法で、「プロジェクトマネジメントの手法を意識的に用いる習慣・態度」を育成することにより、各人の「基礎的・汎用能力」を促進すると言うものである。

### 3.2 基礎的・汎用的能力の育成

中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（H23年1月31日）」（答申）の中に、キャリア教育に求められているものに「基礎的・汎用的能力」の向上があげられている。具体的には 1. キャリアプランニング能力、2. 課題対応能力、3. 自己理解・自己管理能力、4. 人間関係形成・社会関係生成能力の4つである。共同生活をしながら、自己の可能性を伸ばしてゆく寮生活はまさに、これらの力を涵養する上で絶好の場であると言える。

### 3.3 プロジェクトマネジメントの手法

プロジェクトマネジメントの手法とは、

- ① 問題の明確化 → ② 要因の分析 → ③ 課題設定
- ④ 行動計画の策定 → ⑤ 評価と改善

以上の5つのステップを踏んでプロジェクトを遂行する手法のことである。

寮生会のメンバーが、寮生会を運営する際には、この「プロジェクトマネジメントの手法」を意識的に用いることが有効である。

### 3.4 活動の概略

活動内容概略は次の通りである。

- ① 「寮を良くするには」と言う課題を設定して、寮のよい点悪い点、メリット・デメリットを抽出してもらった。その中から、「清掃を徹底するには」と言う問題に取り組むことになった。
- ② 「寮の運営とキャリア教育」と題して、寮役員に講演を行い、この中で「プロジェクトマネジメントの手法」を紹介した。また、この講演をビデオに収録し、寮所有のi-Padに読み込んで、寮役員が必要などきに見直すことができるようにした。
- ③ 他高専を訪問して、本校と比較検討する機会を設けた。
- ④ 以上の準備の後、「寮の清掃」について、問題の抽出と課題の設定が行われ、さらに改善手法として「朝に清掃する日課を夜に変更する」と言う、寮の日課を全面的に変更する手法を寮役員側が提案し、次の開寮時より、変更した日課を実施する。
- ⑤ 朝の清掃を夜に変更したことにより、寝坊者による清掃不徹底が激減した。寮の廊下や階段は、格段に綺麗になっていった。さらに朝食の欠食や、朝寝坊が格段に減るといった効果も確認できた。この結果を受け、今後ともこの日課を行うことが確定した。

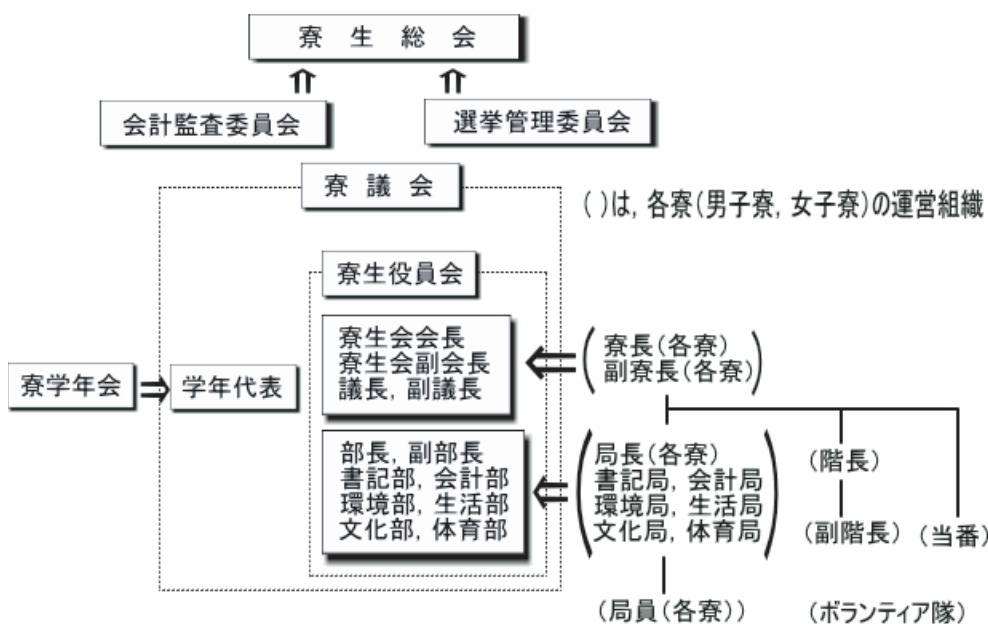


図1 寮生会組織図

#### 4. 寮生役員会組織の統合・再編について

##### 4.1 寮生組織について

寮で行う学習、生活、健康指導のため、寮務委員会と寮務係長から構成される「寮務委員会」と寮生から選出された代表からなる「寮生役員会」および寮生が自主的に運営する「寮生ボランティア組織」が、宿日直教員、寮務係と連携を取りながら寮生の指導に当たっている。

また、寮生会と寮務委員会の意見は寮生会会長、副会長、議長、副議長および寮務委員会で構成される「協議会」で集約される。図で表すと上の図1となる。以下では、この中の寮生役員会の統合・再編について述べる。

##### 4.2 寮生役員会について

寮生役員会は、寮生会会長、副会長、議長、副議長、各局長、局員から構成され寮生役員として寮生の意見を集約し、寮生活の指導、寮行事の企画運営を行っている。任期は1年間である。各局の人数は、男子4~5年生を各学年2名ずつ、女子3~5年生を各学年1名ずつで構成される。各局の業務内容は以下の通りである。

寮生会会長・・・男子寮（八龍寮）寮長にあたる。他の局と違い男子寮の寮生活全般にわたって指導、総括する立場である。

寮生会副会長・・・女子寮（夕葉寮）寮長にあたる。業務は寮生会会長と同じである。

議長・・・男子寮（八龍寮）副寮長にあたる。主に会長・副会長の補佐を行ったり役員会の司会進行を担当したりする。

副議長・・・女子寮（夕葉寮）副寮長にあたる。業務は議長と同じである。

- 文化局・・・前期と後期に1回ずつ行われる会食会の企画、運営と寮生の卒業文集である『夕龍』の企画、作成を行っている。
- 生活局・・・寮の自転車の管理や自習時間、風呂の時間など寮生の生活時間遵守の徹底を呼びかける活動を行っている。
- 環境局・・・ゴミ拾いや毎日の掃除の指導（下級生も参加する）、毎月の寮周辺の清掃活動の企画・運営や寮を清潔に保つためのその他活動を行っている。
- 体育局・・・前期と後期に1回ずつ行われる避難訓練と球技大会の企画、運営を行っている。
- 書記・会計・・・役員会の際の書記を行い、議事録を作成する。また、さまざまな案件の資料作成を行う。

##### 4.3 寮生役員会の統合・再編について

寮生役員会の統合・再編を行う理由としては、以下のものがあげられる。

- 1) 熊本電波高専との統合により学科数が減り、寮生全体の人数が減少したこと。
  - 2) この統合により寮務委員会を構成する教員が従来の6名から寮務主事1名、共通教育科および学学科より1名の5名に減少したこと。
  - 3) これを契機とした従来のシステムの見直しの必要性。
- これらの理由に基づき男女間の寮役員会で話し合い、高知高専や熊本キャンパスの寮生役員会の組織を参考にしながら役員会組織を以下の3つの局に集約し簡素化した。（図2参照）



寮長・副寮長・書記局・・・従来の寮長、副寮長、書記の部分に当たる。

イベント局・・・寮行事に携わり従来の文化局の業務の文化の部、従来の体育局の体育の部の二つの部からなる。熊本キャンパスを参考に再編した。

生環局・・・寮生活の生活、清掃の部分に携わり、従来の環境局の業務を担当する環境の部、従来の生活局の業務を受け持つ生活の部の2つの部からなる。

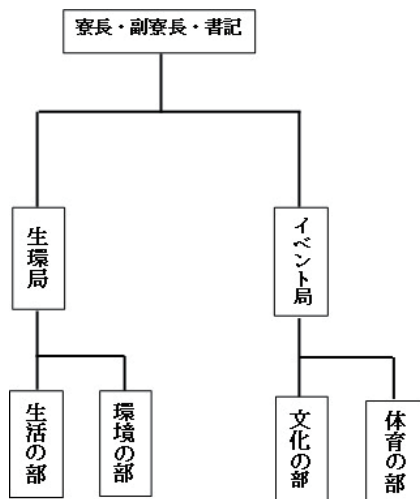


図2 寮生役員会組織図

#### 4.3 寮生役員会統合・再編後の人数配置

役員内から寮長、副寮長に立候補する場合や諸事情により人数が変動する場合があることを踏まえた上で、原則として、次のように決定した。

寮長・副寮長・書記局・・・男子寮：寮長、副寮長を1名ずつの計2名とし副寮長の業務に書記を加える。女子寮：寮長、副寮長、書記を各1名とし計3名とする。

寮務委員：1名

イベント局・・・男子寮：文化の部、体育の部も4~5年の各2名とし各部計4名ずつ、局全体で8名によって業務を行う。

女子寮：文化の部、体育の部と分けて仕事をするのではなく、4~5年の各2名、計4名ですべての業務を行う。

寮務委員：2名（あるいは1名）

生環局・・・男子寮：生活の部、環境の部も4~5年の各2名とし各部計4名ずつ局全体で8名によって業務を行う。

女子寮：生活の部、環境の部も4~5年の各1名とし各部計2名ずつ局全体で4名によって業務を行う。

寮務委員：2名

## 5. 結び

寮運営の主要目的の一つは、寮生活を通じて、寮生一人一人が各人の能力を伸ばす支援をすることであるが、「キャリア教育」の視点から寮運営を考えると、寮生活を通じて伸ばすことができる能力とは、課題対応能力や人間関係形成・社会関係生成能力といった「基礎的・汎用的能力」である。

こうした能力を伸ばす具体的な方法として今回得られた回答は、寮生一人一人が「プロジェクトマネジメントの手法を意識的に用いる習慣や態度を身につける」ための「支援」をすると言うものである（図3参照）。第3章で述べたように、寮生自身の目線で、自分たちの寮をよりよいものに改善していこうと言う意識を持って課題に取り組むことは、彼ら自身の「基礎的・汎用的能力」の涵養に十分寄与したと言える。また、第4章は寮生会役員組織の統合・再編と言う課題に取り組んだ彼ら自身の成果でもある。第2章で述べたように、寮生の安全確保や施設・設備の充実といったことは、寮運営上もとても大切な点であり、これが保証されない限り、寮生は、各人の能力を伸ばすこともできないが、寮生一人一人が積極的に寮運営に関与し、自発的に、自分たちの寮をよりよいものに改善していこうと言う意識が醸成されれば、寮運営上の問題はほとんどすべて解決されるのではないだろうか<sup>(3)</sup>。

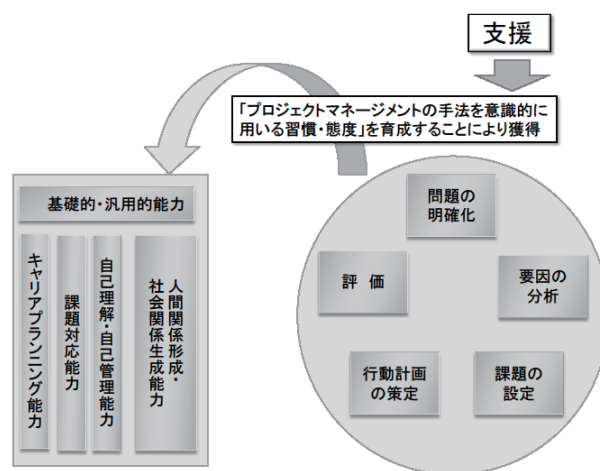


図3 寮キャリア教育のモデル（試案）

（平成26年10月6日受付）

（平成26年12月3日受理）

（註）

- (1) 熊本高等専門学校八代キャンパス寮務委員会『平成26年度版 寮生活のしおり』（2014年）。
- (2) 磯田 節子，五十川 誠「熊本高専八代キャンパス女子寮増改築計画，北寮食堂周辺・中庭整備計画の提案」，熊本高等専門学校『研究紀要（第6号）』（2014年）。
- (3) 次の課題は、どのような「支援」が効果的かと言うことになる。著者の一人である中島は、寮内仮想サーバーを構築し、その効果的支援について模索した。